

★ まちづくり ★ ニュース



ホームページ

<http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Icho/3732/>

149号

★ 2013年4月5日

常盤台の景観を守る会

常盤台まちづくり委員会

代表 鈴木博之 近藤洋子

事務局 島田晴子 tel・fax 3960 - 3869

協力金振込先 郵便局00110-3-739728 ときわ台の景観を守る会

○ 審議会のありかた

原発について、色々な委員会が本来のチェック機能を果たして来なかったことがあの惨事を招いた原因でもありました。

東電側に研究費を援助してもらっていた御用学者もいるし、都合の悪いことは全て隠してしまうし、日本人の良心というものを疑うようなことばかりでした。

板橋区の景観審議会や都市計画審議会も区長の諮問機関にすぎないそうです。しかし任命制の諮問機関だからといって、区の言いなりに結論を出すようなら、委員会の資質を問われねばならないでしょう。少なくとも私たちの税金で報酬が支払われているのですから。区の隠れ蓑になっている、との指摘をいろんな人から聞いています。

常盤台住民に景観利益が認められているということを重く考えてほしいし、何百人もの方が駅前前の景観を憂えて署名した気持ちを知ってもらいたいと思います。

パブコメの行方

同時にあきれてしまったのがパブリックコメントの扱われ方です。広く区民に意見を求めるのは正しいやり方ですが、期間が限られている上に周知されていない条件の中で、パブコメが募集されています。そうして募った大事な区民の意見なのですから、審議会委員たるもの、熟読精査するののかと思えば、都市整備部から印刷して配布することもなく、各委員のネット検索に任されているのだそうです。何人の委員があのパブコメに目を通しているのでしょうか。

審議会だけでなく、国民の意見吸い上げに効果的と言われたパブコメの制度も、一応募集しましたというアリバイ作り、隠れ蓑にされている心配があります。

○ 公園の遊具とベンチ

常盤台公園にあった鉄棒が取り替えられました。大中小と三段あった鉄棒が大中の二つになり、なぜか小の鉄棒が無くなりました。小学校の体育でも子供の達成感を育てるとして、鉄棒の逆上がりはよく取り上げられているようで、学校では苦手な子供達が逆上がりの練習をする姿がよく見られたものです。大人はたまにぶら下がりをしている程度でした。ですから今は全くと言ってよいほど鉄棒を利用する人はいなくなりました。

子供達と一緒に公園に来るお母さん達や、公園のボランティアの人が小の鉄棒を追加するか、取替を申し入れたそうですが、これから取り替えるには例のごとく予算がないと言われたそうです。こんな事が起きるのは、まず人々の意見・希望を聞くことから始めず、区の方で勝手に計画するからでしょう。

北側に大木を割った木のベンチが二つありますが、一つは固定金具が浅かったため壊れてしまい、もう一つもぐらぐら揺れていました。事故が起きる前にメンテナンスをするべきですし、根本的には業者がしっかりとした工事をするべきなのです。至る所で最近の日本の金属疲労、制度疲労を感じませんか。

○ ドイツ流まちづくり講演

5月25日(土) 午後2時～4時
於 ギャラリー服部

ドイツと日本で活躍中の建築家水島信さんが辻説法と称して、各地の市民のために講演をしています。

今回は「居住空間と景観」がテーマで、住宅地として常盤台にぴったりの講演だと思えます。自由にご参加ください。

アリバイ作りに利用される「回覧板」

前号で触れた板橋税務署からの「確定申告日より」を添付した回覧板が大幅に遅れて到着し「無料申告相談」に間に合わなかった問題をもう一方の当事者である板橋区役所地域振興課に質したところ驚愕の事実が明らかになった。

問題の「確定申告日より」は板橋税務署総務課長補佐が事前に何の連絡もなく直接区役所の地域振興課に持ち込み、受け取った同課の係長が自身を全くチェックすることなく区内十八の地域センターに配布したそう。地域振興課から地区センターを経て各町会に配られ、そこで回覧板に添付して区内の十万世帯を優に超える町会会員に回覧される仕組みだ。区内全ての町会会員に回るには通常四、五週間を要する。

一月二日に持ち込まれたものが区内全域に回覧されるのは早くても二月二十日過ぎになる。

成増アクトホールを皮切りに一月末に始まった無料申告相談は常盤台地域センターを経て高島平区民館へと場所を移し、終わったのは二月半ば。回覧板情報のみを頼っている区民は誰一人としてこの無料相談を利用出来なかったことになる。後で気がついたことだが、「広報いたばし」一月一九日号には「税理士による無料相談」の相談日が小さく記されている。区民の生活に直接係わる大事な情報をなげもつと目立つ形で示さないのか? 「結果はどうあれ一応区民には知らせてある」というアリバイ作りに回覧板や広報紙が利用されている気がしてならない。

今後、様々な問題で同様な利用をされないように切に願うものである。

街の将来

ある朝、九十歳の母との会話です。

「この街、将来はマンション街になってしまうの?」

「そんなことないよ 何故?」

「だって先日新聞の折込チラシに常盤台の開発当初の地図が載っていて、大きなマンションが出来らしい広告があったわよ」

「それは違うよ、前野町の光学機器メーカーの跡地の再開発のチラシでしょう」

「常盤台に寄り添うってなっていたわよ」

確かに立派な大きなカラー印刷のチラシに開発当初の分譲地の地図。約七七年経っても変わらない価値がある。感情溢れる「常盤台住宅地に寄り添う、スケール感ある新街区」のキャプションが踊ってます。その下にはクルドサクヤ並木道等の写真が配置され、それほど寄り添ってはいませんが、母には誤解を与えたようです。「今は時代も少しづつ変わって来て景観法も施行されているし、この街の景観を守ろうと言う色々な動きもあるし、心配いらないよ」

「でもひ孫の代になったら、この街どうなってしまうのでしょうか?」

その数日後、石神井川のサクラを愛でに車で母と出掛けました。

「本当に街が変わって行くわね」

大正生まれの母にはこの街の将来が心配でならないようです。

あの素敵な駅舎から始まるこの街全体が「緑豊かで調和が取れた街」として次代に引き継ぐ責任が我々にはあると思います。 Y・N

常盤台公園のはなづくり

クリスマスローズが根元から数輪折り取られていました。取った花を持ち帰るのならまだ解りますが、そのまま置いていたのは何故なのでしょう。捨てるなら可憐なあの花を折ることはないでしょうに……

今年の桜はとんでもなく早咲きで、四月七日ごろを予定していた桜祭りなどは葉桜見物になってしまいました。

花の持ちは良い方で、結構永く楽しめています。

幸い私達はわざわざ花見に出かけなくても、公園や児童遊園だけでなく、街を歩けば所々にある分譲当時から桜の花を楽しめます。

Sさんの家の桜も道をへだてて枝を差し伸べ、駅前殺風景なマンションの裏側を隠してくれていたのですが、電線に障ると苦情があったのでしょうか、今年はかなり大枝を切られてしまいました。

本来なら電線を地中化すべきなのに、そちらの動きが遅いので、木が大事にされていないのは残念です。

と、いろいろある花づくりですが、これから一番楽しみの多い季節です。時々公園の花壇を見がてら散歩にお出かけください。

定例会四月一日(土) 八時半

「モスバーガー」にて